２０２１年度　　足立区　保育研修報告　　VOL.５３

幼児教育研修（発達支援）　　受講者数９２名

日時　令和３年１２月１日（水）　１５：００～１７：００
場所　足立区役所１３階　会議室ＡＢ オンライン研修
講師　和歌山大学　教育学部　　教授　米澤　好史氏

【内　容】

「発達障がいと支援」

発達障がいと愛着障がいとの違いを知り、事例を通して子ども理解を深め、保育者の定説な支援方法について学ぶ。

【受講者の感想】

＊ 研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

・ 愛着障がいの特徴や対応の仕方についての具体的な話がとても分かりやすかった。愛着障がいは特別な環境下でおこるものではなく、誰にでも起こりうる身近なものであることや、愛着修復はいつでもできるということがわかった。
・ 愛着障がいは関係性の障がいであり、いつでも取り戻すことができることやその対応は保護者だけでなく、毎日関わっている保育者が一番の理解者となり、認めてあげることでその存在になれると学んだ。愛着障がいについての理解を正しくもち、自分がキーパーソンとなり子どもとの絆をしっかり築いていきたい。
・ 愛着障がいが発達障がいと違うポイントを具体的に学んだ。愛着の問題発見チェックポイントを参考にしながら対象児と時間をかけて関わり、支援していきたい。また、どう対応したか、子どもがどのような行動をとったかを記録し、職員間で共通意識をもち、子ども理解を深めていきたい。
・ 子どもの危険行動は、嫌なことを紛らわせようとしてやっていることがあることや、愛情欲求のエスカレート現象の事例から、どうしたらいいのかわからず困っているのは子どもということがわかった。子ども主体でも大人主導の先手対応や橋渡し支援が大切だということがよくわかった。
・ 気になる行動をなくそうとすると、その行動は強く出現するという講義を聞き、反省する部分もあった。今の対応を振り返り、今後の対応を考えていきたい。子どもの行動にはすべて理由や原因があり、そのことを理解して支援することが必要だと感じた。子どもの姿から理由や原因を探り、隠れている思いを理解した上で、職員間で連携し保育を進めていきたい。愛着の視点から子どもの発達を捉え直し、職員間で共有して子ども理解を深め、支援していきたい。

＊ ご意見・ご感想

・ 米澤先生の講義は大変具体的でわかりやすく、子ども理解をさらに深めることができた。